

2013年鳥取市議会2月定例会

「生活保護受給者に対する見舞金制度の見直し中止を求める請願」

賛成討論 日本共産党 鳥取市議団（角谷議員）

私は、請願第2号生活保護受給者に対する見舞金制度の見直し中止を求める請願に、賛成の立場で討論をおこないます。

今回の見直しの理由は、生活保護費の増大と財政負担の増加、そして見舞金の意義・目的の希薄化であると説明しています。しかし、生活保護の増大と財政負担はたしかに増えていますが、財政負担を問題にするなら、本来国民生活のセーフティネットは全額国庫負担をもとめるべきものであり、鳥取市としてその要求をしているのでしょうか。財政負担の増大といっても、年間1500万円であり、本当の理由ではありません。また、この制度を現在中国地方の県庁所在地の都市で実施しているのは鳥取市だけだ」と言って、この目的は希薄化していると説明しています。

しかし、昨年9月議会に提出した事業別概要の説明や決算審査特別委員会の総括質疑に対する答弁では、この目的・効果に関して「盆暮の臨時的需要に対応して、年2回見舞金を支給することにより生活の安定を図る」としつつ、今後は見直しするというものでした。希薄化という評価はしていませんでした。これは、まったく筋妻があわない理由であります。そこには、生活保護を利用する人の生活実態を踏まえた見直しではなく、財政負担を理由にしたものであると言わざるをえません。

また、生活保護を利用する人は、特に働ける年齢層で増え、その支援策の改善・強化は必要です。しかし、こうした点に力を入れる代わりに、見舞金を廃止することは、趣旨と目的が全く異なることです。

いま、ごく一部の不正受給や生活態度、強制義務はない扶養問題を取り上げて、生活保護制度と利用者に対する誤解と偏見を利用した生活保護バッシングのなかで、多くの人が病気による就労困難や少ない年金などによって生活保護を利用しきびしい現実を市が把握もしないまま、見直し・廃止することに対して、自立や就労したくても出来ない人たちはいま、どんな気持ちでしょうか。

ある一人暮らしの高齢の女性が、「着るものはリサイクルショップで買うのが

ほとんどです。市役所の担当の方は私に毎月少しでもお金を貯めて急な出費に備えるように言われるが、そんな余裕はとてありません。」と話していました。

また、ある別の女性の方は「正月前は、魚・肉類など高い商品が多く出回り買うのは大変だ。人並みの正月ができなくなる」と不安を訴えるように、お盆の花代も含めて、盆と暮れの季節的臨時的な需要に対する見舞金はわずかでも生活の支えになっています。生活保護の最低生活とは、健康で文化的なものであり、その程度はほとんどの国民が享受している状態であるかどうかで決められます。この見舞金の継続をもとめることは一般社会からすれば特別なのでしょうか。ごく普通の生活を送る為の支援であり、特別扱いでもありません。

さらに、今回の見舞金見直し・廃止の時期について、市の説明は国の生活保護の見直しとは別であると言います。生活保護を利用する市民はそう思いません。国が生活保護の水準を引き上げないどころか、年末の期末一時扶助の引き下げも行うとしているとき、臨時的な需要に対応する見舞金の意義・目的は、希薄化になっているどころか、むしろ独自の支援策としては継続が必要です。

この見舞金制度は、生活保護の利用者の厳しい現実と切実な声を受け止めて、生活に困窮する市民を激励し、自立を支援していくという福祉充実のまちづくりをすすめるという点でも意義・目的は厳然と明らかなです。最後に、私は紹介議員として、議員各位に対し、この請願への賛同を心からお願いして、賛成討論を終わります。